

2011年1月31日

東京ガス株式会社

2011年3月期 第3四半期決算電話会議

主なQ & A

Q 1 : 気温が家庭用ガス販売量に与える影響について従来から変更があったようだが、その内容は何か。また、その変更が今後の見通しに与える影響は。

A 2 : 第2四半期(2010年7月~9月)については、猛暑により平年値を大きく上回る気温で推移したため、従来の気温補正による家庭用販売量差異分析では正しく分析できないため、今回見直している。第3四半期からは従来の気温補正にて家庭用販売量差異分析を行っている。

第4四半期については、1月は確かに平年より低気温で推移しているが、需要期である残り2ヶ月の動向については確固たる見通しが困難であることから、現時点では家庭用のガス販売量見通しは概ね当初計画並みと想定している。

Q 2 : 特別損益について「投資有価証券評価損減」とあるがこれは何を指しているのか。

A 2 : 第2四半期において特別損失として計上した「保有有価証券評価損▲23億円」について、第3四半期においては、対象となる保有有価証券の株価が上昇したことから、当該▲23億円を振り戻したことを指している。

Q 3 : 第4四半期の工業用の見通しについて、どのように見ているか。

A 3 : 工業用需要については、足元において、エコカー補助金やエコポイント等の各種支援策の終了・縮減により設備稼働が低下していることに加え、発電専用の一部のお客さまで大規模修繕等が生じたこともあり、ガス販売量が減少している。この傾向が第4四半期も継続すると見込まれることから、前回見通し(平成22年10月29日発表)より▲8,000万m³下方修正し、61億600万m³の工業用需要と見通している。